

特別公開「雛と雛道具」展示作品リスト

NO.	名称	数量	年代	所蔵
1	やちよ ひなどうぐ 弥千代の雛道具	1揃 (85件)	江戸時代後期	本館蔵(井伊家伝来資料)
2	まちよ あまがつ 真千代の天児	1軀	江戸時代後期	本館蔵(井伊家伝来資料)
3	ひなごてんかざ 雛御殿飾り	1揃	昭和時代前期	本館蔵(青柳和子氏寄贈)
4	ひなごてんかざ 雛御殿飾り	1揃	明治33年(1900年)	本館蔵(山本高嗣氏寄贈)
5	ひなごてんかざ 雛御殿飾り	1揃	大正7年(1918年)	本館蔵(尾賀信子氏寄贈)
6	ひなだんかざ 雛段飾り	1揃	昭和時代前期	本館蔵(加納基弘氏寄贈)
7	こきんびな 古今雛	1対	江戸時代末期	本館蔵
8	こきんびな 古今雛	1対	江戸時代末期	本館蔵(森嶋美代子氏寄贈)
9	こきんびな 古今雛	1対	江戸時代末期	本館蔵(藤野金七・林弥家伝来資料)
10	こきんびな(つけたり ひなどうぐ) 古今雛(附 雛道具)	1揃	昭和6年(1931年)	本館蔵(山岡勢津子氏寄贈)
11	ごしょにんぎょう 御所人形	1対	江戸時代後期	本館蔵(井伊家伝来資料)
12	まめにんぎょう だいどころどうぐ 豆人形・台所道具	1揃	大正～昭和時代	本館蔵(山田米子氏寄贈)
13	たちびなず いわやさざなみひつ 立雛図 巖谷小波筆	1幅	明治～昭和時代	本館蔵(日下部暘氏寄贈)

## 写真解説

### 1 弥千代の雑道具 一揃 (写真はその一部) (作品リストNO.1)

江戸時代後期

本館蔵 (井伊家伝来資料)

貝桶かいおけや三棚さんたな、挟箱はさみばこなど85件からなるミニチュアの調度類。弥千代の婚礼に際し、婚礼調度を模して誂あつらえられました。井伊家の家紋たちばなもんである橘ねび紋と共に、根引きの小松、笹竹、梅枝うめがえの様子が描かれ、全体に統一感ある意匠となっています。



### 弥千代の雑道具のうち 碁盤・双六盤

碁盤 高7.2cm

双六盤 高6.5cm

日本で古くから楽しまれてきた遊びである碁と将棋で用いる盤。碁は、白黒のコマを交互に並べ、地を広く占めた方が勝ちとなる遊びで、双六は、2個の賽を振り、出た目の数だけ白黒のコマを進め、早く相手の陣に入った方が勝ちとなる遊びです。

碁盤・双六盤は将棋盤と揃いで「三面」と呼ばれます。三面は、女性の教養を育むにふさわしい遊技具とされ、江戸時代には、婚礼調度の定番となりました。弥千代の雑道具においても、当初は三面揃であったと伝わります。



碁盤



双六盤

### 2 真千代の天児 一躯 (作品リストNO.2)

高 44.1cm

江戸時代後期

本館蔵 (井伊家伝来資料)

井伊家13代直弼の4女真千代まぢよ (1854~1904) の誕生に際して誂あつらえられた天児あまがっ。

天児は、子どもに降りかかる災けがいや穢れを代わりに負わせる人形です。子どもの誕生とともに準備され、新しい着物は、いったん天児に着せて厄を払ってから、子どもに着せることも行われました。女兒の場合は、成長した後も、雛祭で飾りつけたり、輿入れの際に持参することもありました。



3 ひなごてんかざ 雛御殿飾り 一揃 (作品リストNO. 4)

高 64.5cm

明治33年(1900年)

本館蔵 (山本高嗣氏寄贈)

紫宸殿を模した御殿の中に男雛と女雛、かんじよ 官女を、御殿の周りにはずいじん 隨身やしちよう 仕丁などを配した雛御殿飾りの一揃です。雛御殿飾りは、江戸時代の末頃から盛んに行われるようになり、明治時代には広く普及しました。

この御殿飾りは、明治33年(1900年)3月に生まれた千代という女性はつぜつくの初節句のために、京都で製作されたものです。御殿は大振りみすで、飾り金具をあしらったしとみど 部戸や房飾りの付いた御簾など、細部まで丁寧みずに作り込まれています。明治期の雛飾りを今に伝える貴重な優品です。



4 こきんびな 古今雛 一対 (作品リストNO. 7)

男雛 高 44.5cm

女雛 高 43.4cm

江戸時代末期

本館蔵

男雛と女雛の一対。公家風の衣装をまとう内裏だいり雛びなの一種で、江戸時代明和年間(1764~1772)に江戸の人形師原舟月はらしゅうげつが創始した古今雛こきんびなと呼ばれるものです。造作は、細部までよく整えられており、目元や口元、髪かみの生際なまじりなどを描き出す柔らかな筆遣いは、制作者の確かな技量を感じさせます。

